

## ゆめちゃんが4歳の頃のこと

現在4歳1ヶ月の娘は、2歳10ヶ月の時右脳幼児教育を始めました。

右脳幼児教育のお教室へ体験授業に行ったとき、右脳幼児教育の理念である「子どもを尊重し、子ども褒めながら、愛情豊かに育てる」という子どもとの向き合い方に強く惹かれ、直感的に「右脳幼児教育をやりたい!」と感じたことを覚えています。私がぼんやりと思い描いていた理想の子育てをまさに言語化したものだったからだと思います。

お教室に入塾すると、まず最初に学習習慣を身に付けることの大切さを学びました。

そこで、学習を習慣付けるために自宅で幼児向けのプリント学習をすることにしました。

ところが、最初は気合が入っていたため毎日解いていたのですが、半年も経つ頃にはプリントをやらない日が続いてしまうことも多くなり、私は思い悩むようになりました。

このことをお教室の先生に相談すると、先生からは、「帰宅したら、“手洗い→うがい→プリント”のように習慣で行っている一連の動作の中に学習を組み込んでいくと忘れずにできるのではないか。」というアドバイスを頂きました。

この方法は効果観面(てきめん)で、この方法を導入してからは、毎日忘れずにプリント学習を続けることができ、学習することが習慣化していきました。プリントも順調に解き進められ、3歳10ヶ月のときには一連のシリーズを無事に終えることができました。

今、振り返ると、学習を続けられずに悩んでいた当時は、学習を習慣化したいと思いつつも、1日のどのタイミングで行うのかを意識しておらず、「時間ができた時にやろう。」という安易な考えで、私自身が子どもの学習について受動的に捉えていたんだと思います。

今では、私がその日に行うプリントをホチキスで予めまとめておくと、帰宅して手洗いうがいを済ませた娘が、1日分の束になったプリントを上から順にとって椅子に座って一緒にやるのを待っていてくれるようになりました。



自宅学習を習慣化するためにやり始めた1日分をまとめておく方法は、日々のプリント学習を忘れずに行えるようにしてくれただけでなく、娘が1日分の終わりを見据えて学習できるようになったことで、学習にメリハリが付き、学習効果の向上にも繋がっていると思います。

自宅学習の習慣化ができた頃から、様々な暗唱集もプラスして行い、暗唱することも習慣化していきました。

これらの暗唱もプリント学習を日常の習慣に組み込んでいくという同じ要領で、就寝前と起床後に唱えるという方法で行いました。

枕元に暗唱集を置いて、就寝前の絵本を読む時間に暗唱集の読み聞かせも併せて行うようにし、起床後はおはようの挨拶をしたら実際に暗唱してみる、というように「生活習慣の一部として暗唱する」という流れを作っていました。

娘が入塾した時には、既にお教室の授業では、暗唱の授業も進んでしまっていたので、遅れている分を埋めつつ、お教室でやっている部分も進めていくようにしました。

暗唱は、娘自身も成長を実感しやすいようで、暗唱ができるようになっていくと「これ先生に発表したい!」と言って、娘の大きな自信となると共にお教室に行く楽しみとなっていました。

丁度その頃、右脳幼児教育のセミナーで“お教室は日々の発表の場”ということを知り、今の娘の状況がまさにそれだと思いました。

その後は、改めて、“お教室に通ったからできるようになる”という考え方ではなく、“お教室を日々の取り組みの方法を学び、発表する場”としていくことを意識していきました。

お教室が発表する場になると、日々の取り組みがより活発になり、「世界一周」、「100ペグ」、「小林一茶の俳句」などを楽しみながら主体的に吸収していくようになりました。

私としては当初、「100ペグって覚えて何の役にたつのだろう?」「俳句って覚えても学校で多くを学ぶ分野ではないから優先順位は低いのではないか?」といった疑問があったのですが、娘が発表を楽しみにしていたので、継続して暗唱していました。



間もなく、暗唱する効果・暗唱する意義を日常生活の至るところで感じるようになりました。

100ペグでは、娘がナンバープレートや電話番号などあらゆる数字を100ペグにあてはめている様子を見て、数字に関心が湧いてきたのを感じました。

そこで、お教室で円周率を覚える以外に、100ペグを使って何か暗記することはできないかと考えました。家族で話したところ、インド式掛け算をペグにできるのではないかとということになり、インド式掛け算に対してどんな物語にできるのかを一緒に考え、絵に描いて実践してみました。“物語を作るコツ”も、お教室で先生から教わっていたので、実際にインド式掛け算に活用する時、コツを意識しながら物語を作成することができました。

これにより、現在、娘も喜んで物語を作ってインド式掛け算を覚えています。今後も引き続き20×20まで作成したいと思っています。

俳句の暗唱については、一茶の句を100句ほど暗唱できるようになってきた頃、秋の枯れ木を見た娘が「『てきぱき散ってつんと立つ』、だね！あの落ち葉はどこへ行っちゃうんだろう？」とか、田んぼの稲を見て、「稲穂はご飯になるんだよね！秋の匂いがするね！」とか、生命や季節を敏感に感じ取れるような成長がみられました。一茶がそうであったように、一茶の句を通じて娘の中で生きとし生けるものに想いを馳せる感受性が培われていると感じました。

優れた作品を通じて、自然への関心や生命への愛を学び、楽しみながら感性を育むことができているのではないかと思います。

ところで、娘が抱いた“落ちた葉っぱはどこに行くんだろう？”という疑問に対しては、娘の疑問を真摯に受けとめ、我が家では拾った落ち葉で腐葉土を作る実験をしています。

春になったら手作りの腐葉土を使って、一緒に家庭菜園をすることが今から楽しみです。

このように最近の娘は好奇心も旺盛になり、例えば夕日を見ては「夕日はどうして赤いんだろう？」など積極的な探求心が芽生え始めています。

この疑問に対しても、我が家ではないがしろにすることなく、ライト（太陽の代わり）とペットボトルに樹脂と水を入れたもの（大気の代わり）を用いて、光の反射にまつわる実験をして、夕日の再現を試みました。



お教室での学びや子どもの興味関心は、日常と繋がっていて、「日常こそ学びである」ということを我が家では特に大事にしています。

全ての親は子どもの人生が幸せであることを願っています。人生が幸せであるということは人生を楽しむことであり、人生を楽しむためには学ぶことが必要不可欠であると考えています。

右脳幼児教育の子育てのヒントにも、「自分自身を愛することから繋がる学び」ということが挙げられていますが、このヒントをもとに私なりに子育てというものを解釈すると、「自分自身を愛することができなければ、その後の学びには繋がらない、そして子の学びには親の子への愛情が欠かせないエネルギーになる。」ということがいえるのではないかと思います。

それだけのエネルギーを持つ親の子への接し方が与える子どもへの影響は計り知れません。

そのため、私自身も子育てへの考え方や子供への接し方が少しずつ変わっていき、日々をプラスのイメージで生活することで自分自身の思考も変わりました。

私は生まれてきてくれた娘に、「目の前には素敵な世界が広がっていることを肌身を持って実感してもらいたい。」「未知なる世界を発見する探究心と世界を創る豊かな想像力の大切さを知ってもらいたい。」と漠然と思っていました。

今、私は、私自身が人から単に教わるだけの受け身の勉強ではなく、主体的・能動的な学習をすることが大切であるということを経験から学んでいます。

そのために、日常生活において、無意識に行っていたことの意味を意識的に理解すること、理解した事柄を関連させながら発展させ、自ら創造することを積極的に実行しようと心掛けています。

親子共々成長させていただいている最中です。

これからも「子どもを尊重し、子ども褒めながら、愛情豊かに育てる」を育児の原点にして、子どもの接し方や言葉一つひとつが子どもへの贈り物だと思い、またその大事な贈り物をしっかり届けられるよう親自身も成長して、娘にプレゼントしていきたいなと思います。



最後に、娘がこのように楽しく学習することができるようになってきたのは、途中入塾であっても、他の生徒と比べることなく、娘自身の成長を一生に喜んでくれる先生方や一緒に右脳幼児教育へ通うお友達とその親御さんの温かい存在があったからだと思います。

娘にも、周りの人たちへの感謝を忘れずに、健康に大きくなっていてもらいたいと思っています。

ゆめママ

ここにはベスティが提供する  
おうちえいご教育の原点となる考え方が  
述べられています。

ベスティでは、  
英語だけでなく、幅広く様々な分野で、  
好奇心をもって  
主体的に取り組めるお子さんを育てることを  
目標にしております。

